



本堂の前で記念撮影をするお稚児さんと檀信徒の皆さん

願 満

復刊第十号
2010年 12月
身延別院発行
〒103-0001
東京都中央区
日本橋小伝馬町3-2
Tel 03-3661-3996
Fax 03-3663-2766

お会式のにぎわい

お稚児さん十八人がお練り

身延別院のお会式が十一月三日に開かれました。平成十九年に復活させたお稚児さん行列が今年も日本橋小伝馬町の一帯を練り歩き、約百五十人の檀信徒が日蓮聖人への報恩感謝の気持ちで法要に参列しました。

お会式は、日蓮聖人がおなくなりになられた十月十三日を中心に、全国各地の日蓮宗寺院、教会、結社で行われる法要儀式です。言い換えれば、「一年に一度、日蓮聖人の御魂にお会いできる式」です。今年で七百二十九回を数えました。

身延別院では毎年十一月三日・文化の日にお会式を行っています。たくさんのお稚児さんを迎えるために、お寺ではお会式に向けて万灯を準備したり、薄紙で作った花を本堂内に飾ったりと檀信徒さんの協力で会場づくりを進めてきました。また、地域の皆さんにも親しまれるようにと、三年前からお稚児さん行列を復活。今年は檀信徒の子どもさん、お孫さん、近所の保育園の子どもさんら十八人がお稚児さん行列に参加すると申し込みがありました。

お会式の当日、お稚児さんたちは、彩り鮮やかな衣装に身を包み、きれいにお化粧をし、午後一時に家族とともにお寺の前を出発。小伝馬町交差点から本町三丁目交差点へ、そして再びお寺へと約八百メートルの道のりを、お題目と団扇太鼓の音に合わせて練り歩きました。かわいらしいお稚児さんの姿は、道行く人たちからも注目されました。

本堂の前でお稚児さんとその家族が記念撮影を済ませた後、お会式法要が本堂で厳かに営まれました。お稚児さんの一人、飯田詩乃ちゃん(七歳)が参列者を代表して、日蓮聖人のご遺徳をしのぶ祭文を読み上げました。(平山)(五ページに特集)



妙圓寺のご住職と本堂の前で記念撮影

御首題を いただく旅

第十回 山形県米沢市・妙圓寺

山形県最古の日蓮宗寺院で
千か寺参りを成就!

「願満」は年三回の発行で、今回が復刊第十号。私が日蓮宗寺院の千か寺参り修行で訪ねたお寺を、第一号から紹介してまいりました。実は、今年七月二十八日に訪ねたお寺で、いただいた御首題が千か寺に達し、私は千か寺参りを成就することができました。今回、紹介するのは、ちょうど千か寺目に訪ねたお寺・山形県米沢市の妙圓寺です。

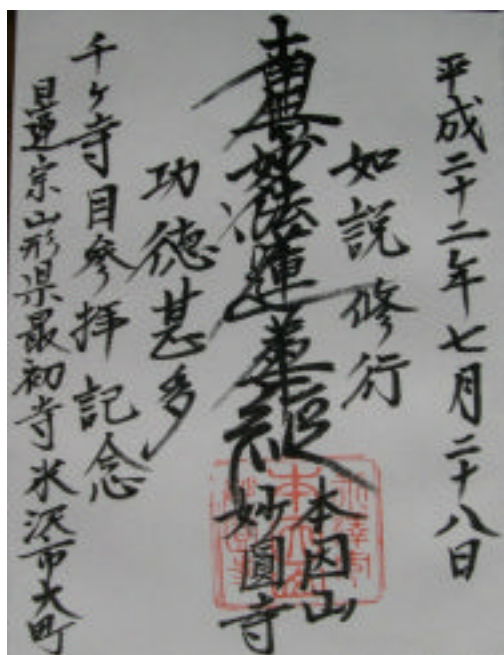
私の千か寺参り修行は、まわったお寺の数が九百を超えるところから、行く先々のお寺の皆さんに注目されるようになりました。「千か寺目のお寺は、由緒のあるお寺に決めてあるのでしょうか?」「決めておいたほうがいいですよ」といった具合です。けれど、私は「由緒があるから、後回しにしてとっておく」というようなことができない性格です。お寺の歴史などを調べて行ってみたいお寺があると、すぐに参拝計画を立て、訪ねてきました。

その日の昼過ぎに、JR米沢駅に降り立ったとき、いただいた御首題の合計は九百九十七か寺になっていました。駅から徒歩で行ける日蓮宗のお寺は三か寺。「三か寺からいただければ、この地で千か寺達成。ご住職が不在のお寺があれば別の町に持ち越し」。どきどきしながら駅をスタートしました。そして二か寺から御首題をいただき、最後に妙圓寺を訪ねたのです。

呼び鈴を押すと、「ご住職が姿を現しました。私には言いました。「千か寺参りをしている平山と言います。御首題をいただけますか。実は、このお寺で千か寺目になります」。するとご住職は「それはおめでと。御首題を書いてきますから、どうぞ上がってお参りください」と言ってくれました。再び姿を現したご住職は普段着から法衣に着替え、いっしょにお題目をあげてくれたのでした。妙圓寺は宗祖・日蓮聖人滅後二十四年目の一三〇六年(徳治元年)の開創。山形県内最初で最古の日蓮宗寺院で、山形県日蓮宗根源道場なのでそうです。

それにしても、こうして無事に千か寺成就できたのは、身延別院の皆さまの後押しがあつたからです。記念すべき「願満」第十号に、千か寺成就を報告できるのも、何かのご縁を感じます。本当に感謝しています。

(平山徹・新聞記者)





べったら市に出店 青年会

「温かいおうどんはいかがですかー」「本場・讃岐から取り寄せたうどんですよー」。身延別院青年会が十月十九、二十日、東京・日本橋本町の宝田恵比寿神社を中心に開かれる「べったら市」に参加し、「讃岐うどん」の店を出しました。

べったら市は江戸時代中期から続いていると言われる伝統の行事です。この二日間はべったら漬けをはじめ、お好み焼き、焼きそば、じゃがバターなど三百軒以上の露店が並び、正午から午後十時までの間、たくさんの人でにぎわいます。

青年会は、身延別院檀信徒の関係者である大伝馬町一之部町会長の石倉知之さんらのご尽力で、昨年のおべつたら市に初めて出店。昨年は揚げたご焼きの店を出しましたが、今年は讃岐うどんの店を構えました。藤井教祥副住職を中心に青年会のメンバーが、前日までに、讃岐う



青年会が出した讃岐うどんの店(写真上)
注文が続々(写真中)
うどんをゆでる副住職(写真左)
ボリュームたっぷり(写真下)



どんの本場・香川からうどん玉二百四十食を調達しました。べつたら市の当日は、メンバーが「温かいおうどんはこの店だけですよー」「からだを温まりますよー、いかがですかー」などと、道行く人に声をかけました。天然いりこだしを使い、ゆで玉子または生卵のほか、ネギ、ワカメがたっぷり掛けられて四百五十円はお値打ち価格。一度に三つも四つも注文し、器にフタをつけて持ち帰る人の姿もみられました。

二日間で二百四十食すべてを売り切り、三万三千四百円の収益がありました。収益金は子育て支援活動に充てる予定です。メンバーからは「二年目ということもあり、昨年の反省も踏まえて充実した取り組みをすることができました」などの声があがっていました。

ご協力いただいた檀信徒の皆さん、ありがとうございました。



みんないい顔！お稚児さん

今年の身延別院のお会式では、十八人の子どもさんたちがお稚児さん行列に参列しました。十思コミュニケーションルームで着替えを済ませた子どもさんたちは、初めは緊張していたり泣き出しそうだったりしていましたが、お練りが始まる頃にはすっかりうちとけました。団扇太鼓を叩く子どもさん、嬉しくて飛び跳ねようとする子どもさん、みんな元気いっぱい、素敵な笑顔を見せてくれました。



寺の動き



國前寺の貫首猊下と記念撮影

広島・本山國前寺を団参

身延別院の檀信徒による秋の団体参拝が十一月二十六日から二泊三日の日程で行われました。今回訪ねたのは、広島県広島市の本山國前寺でした。藤井教祥副住職、河野信成上人をはじめ檀信徒十三人が十一月二十六日午前、新幹線のぞみ号で東京駅を出発。広島駅からバスで國前寺に向かいました。國前寺は、日蓮聖人のご遺命を受け、帝都(京都)弘通を果たされた

龍華樹院日像上人が当地で教えを広め、開山したお寺です。戦災を奇跡的に免れ、本堂と庫裏はともにも国の重要文化財に指定されています。団参の一行は本堂でご開帳を受け、全員でお題目を唱えました。その後、広島城を見学し広島市内のホテルに宿泊しました。翌日の二十七日は宮島口まで行き、そこから船に乗り込んで宮島に向かいました。世界遺産に登録されている厳島神社を参拝し、引き続きロープウェイなどを利用しながら宮島の紅葉を楽しみました。最終日の二十八日は宮島から広島市内に戻り、原爆ドームや平和記念館を見学しました。三日間にわたってさわやかな秋晴れに恵まれ、充実のひとつを過ごしました。



さわやかな青空の広がった宮島で

お会式の花作り奉仕

身延別院の檀信徒の皆さんが十月十九、二十日、お会式の花作りに取り組みました。お会式では毎年、本堂の外内にピンクと白の薄紙で作った花をたくさん飾りつけます。その花をみんなで手分けして作り、竹や万灯にくくりつけるものです。作業は地下ホールで行われました。

お手伝いいただいたのは以下の皆さんです。
阿久津喜美子、石渡日出子、林好江、小島喜恵子、黒石鈴子、寺久保トシ子、石田光子、北村孝子、甲斐千枝子、杉山尊子、加藤和恵、今井善子、飯田望、柴野修一郎、柴野百合子、岡本春雄、岡本つね子、勝見登志子、埴多賀子、奥野洋子(敬称略)。ありがとうございました。



お会式の花作りをする檀信徒の皆さん(10月19日)

永代供養墓が完成

身延別院が千葉県市川市の総武霊園内で工事を進めていた永代供養墓が十月七日に完成し、同日、開眼法要が厳修されました。

永代供養墓はお経を読誦し、修法加持によって開眼しました。それまでに申し込みを済ませている方のお骨は、開眼法要の後、順番に納骨を行いました。永代供養墓は身延別院が責任を持って納骨し、永代にわたり管理・供養する墓所です。承継者がいなくても無縁になる心配がありません。永代使用料(供養料)などについて、詳しくは身延別院のホームページ(<http://minobu-betsu.in.jp>)で紹介しています。身延別院または総武霊園へ直接、お問い合わせいただいてももちろん構いません。



永代供養墓の開眼法要(10月7日)

住職が『法華経』を現代語訳



藤井教公住職の『現代語訳 妙法蓮華経』がこのたびアルヒーフ社より刊行されました。写真。この書

は、私たちがふだん読誦している『妙法蓮華経』の序品第一から普賢菩薩勸発品第二十八までの全文を現代語訳したものです。これによって『法華経』の経文がどのようなことを説いているのか、わかりやすい現代語によって知ることができます。檀信徒の皆さんにぜひお勧めします。税込価格八千四百円のところ、身延別院扱いで特別に七千四百円にてお頒け致します。

秋季彼岸法要に六十人

身延別院の秋季彼岸会施餓鬼法要が九月二十六日午後一時から、本堂で営まれました。檀信徒約六十人が本堂に集い、提婆達多品などのお経を読みました。ご先祖をはじめ、ご縁のあった方々の塔婆をご供養しました。

豆入れ奉仕のお願い

来年の追儺式(節分の豆まき)で用いる豆の袋詰め作業を、一月十九、二十日に行く予定です。一時間でも二時間でも、都合のつく時間がかまいません。お手伝いいただける方、今回もどうぞよろしく願います。

今後の予定

一月 一日(土)～三日(月)

新年初詣、終日御開帳

九日(日) 中山法華経寺荒行堂参拝・新年御祈禱 厄除け祖師本山堀之内妙法寺参拝・御開帳

十日(月) 初三日講(鏡開き)法要・法話並びに初甲子大黒天祭礼

二月 三日(木) 節分会追儺式(豆まき) 午後一時より

編集後記

願満第十号をお届けします。今回は、お会式のお稚児さん行列に参加した子どもさんたちの笑顔の特集しました。この子どもさんたちが将来、この写真を見て、どんな感想を持つことでしょうか。楽しい思い出として振り返ってもらえたらうれしく思います。

また、青年会がべつたら市に参加した様子も特集でお伝えしました。来年も参加する方向で今から張り切っています。

今回の発行は節分後を予定しております。

(平山)